学校だより

平成３０年１月１０日
１ 月 号
横浜市立あざみ野第一小学校
http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/azamino1/　　０４５－９０２－７１５１

進化の一年に

校長　藤馬　直子

新年明けましておめでとうございます。今年も穏やかな晴天のお正月となりました。

保護者の皆さま、地域の皆さまにおかれましては、昨年は本校の教育にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。今年も職員一同力を合わせ、子どもたちの健やかな成長のために邁進する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年の干支は「戊戌」です。「戊」の字は、草木の繁茂を意味し、「戌」の字は、枯れを意味するそうです。新たな芽生えを成長させるのか、枯れさせてしまうのか。今年はその分かれ目とでもいうのでしょうか。もう少し調べてみると、一方が枯れて、一方が盛大になる、これは変化を意味することだとわかりました。また、「戊」も「戌」も「茂」がもとになっているそうです。樹木が茂ると日光が当たらなくなるので、いずれ植物が枯れてしまいます。だから、この時期に枝や葉を切らなければならないということだそうです。言い換えると、枯れないために別のステージに行くということでしょうか。今年は、進化をするために変わることのできる年ということになるでしょう。学校・家庭・地域が、これまで以上に協力し合い、子どもたちの健やかな成長のために、勇気をもった取組をする一年にしていきたいと思います。

ところで、皆さまのお宅では、どのようなお雑煮を作っていらっしゃいますか。

お雑煮ほどユニークな家庭料理はないのではないかと思います。「お雑煮」という同じ言葉なのに、そのバリエーションは実に豊かです。年に一回の家庭の行事食ですが、発祥は公家のハレの日の食からと言われています。それを室町時代には武家が真似をして、宴席で提供されたようです。今のように全国的に庶民に広まったのは江戸時代で、一年の豊作や子孫繁栄を願って食べるようになったと言われています。我が家のお雑煮は、シンプルです。澄まし汁に焼いた切り餅、小松菜、そこに鰹節が添えられているだけです。私の実家は、澄まし汁に焼餅ですが、いろいろな野菜や鳴門まきが入ります。子どもの頃は大阪に住んでいたので、丸餅でした。お雑煮からそれぞれの地域で大切にしている価値観や食風習が垣間見えるので面白いです。そして、情報化社会の今も地域の食文化が緩やかに継承されつつも融合し、各家庭のお雑煮へと変化してきているように思います。この各家庭の味や価値観を大切に、お互いの価値観を尊重し合うことを忘れてはいけないと感じる年初めでした。